

# 令和6年度 園内研修報告書

## テーマ

幼児が遊びこむための環境構成や援助の工夫  
～様々な環境との関わりを通して～



## 園内研修メンバー

園長 糸洲 修      教諭 島袋 繁之  
補助教諭 木藤 弘美

南城市立久高幼稚園

## 目 次

|      |                         |     |
|------|-------------------------|-----|
| I    | テーマ設定の理由                | 1   |
| II   | 目標                      | 1   |
| III  | 方法                      | 1   |
| IV   | 内容                      | 1、2 |
| V    | 園内研修年間計画                | 2   |
| VI   | 構想図                     | 3   |
| VII  | 実践事例                    |     |
|      | 事例1 「お兄ちゃん、お姉ちゃんに伝えたいな」 | 4   |
|      | 事例2 「同じ知念なんだよね」         | 8   |
| VIII | 成果・課題・対応策               | 10  |

## 幼児が遊びこむための環境構成と援助の工夫 ～様々な環境との関わりを通して～

### I テーマ設定の理由

近年の急激な社会の変化を受け、子どもをとりまく環境も大きく変化している。そのような社会を生きていく子どもたちには、自分で考え判断する、進んで行動する、意欲をもって活動するなど主体的に遊びこむ力を育むことが求められる。幼稚園教育要領解説第4節3項の(2)には、「幼児が様々な人やものとの関わりを通して、多様な体験をし、心身の調和のとれた発達を促すようにしていくこと。その際、幼児の発達に即して主体的・対話的で深い学びが実現するようにするとともに、心を動かされる体験が次の活動を生み出すことを考慮し、一つ一つの体験が相互に結び付き、幼稚園生活が充実するようにすること。」と明記されている。また教師は、幼児との信頼関係を十分に築き、幼児が身近な環境に主体的に関わり、環境との関わり方や意味に気付く、これらを取り込もうとして、試行錯誤したり、考えたりするようになる幼児期の教育における見方・考え方を生かし、幼児と共によりよい教育環境を創造するように努める必要がある。

本園のある久高島は、人口150人ほどの小さな島である。人と人の距離が近く、園児は島民から見守られて園生活を送っている。本園の実態として、3歳児2名、4歳児2名、5歳児2名の計6名で異年齢保育の小規模園である。製作遊びや、虫捕り、運動遊びなど様々な遊びを楽しんでいる。しかし、久高島の閉鎖された環境では限界があり、集団で活動することの楽しさや、様々な人やものに関わって遊ぶ体験が乏しいと考える。

そこで、幼稚園教育において育みたい資質・能力を踏まえつつ、様々な人や自然、ものに関わる体験を通して、幼児が遊びこむための環境構成や援助の仕方を探っていきたいと考え本テーマを設定した。

### II 目標

様々な人や自然、ものとの関わりの中で心を動かされる体験を通して、幼児が遊びこむための環境構成や援助の仕方を工夫する。

### III 方法

- 1 「幼児が遊びこむような経験」の実現に向けて保育の改善を図る。
- 2 カリキュラム・マネジメントを通して、明日の保育につながる振り返りを実践し、保育の質の向上につなげる。
- 3 さまざまな人や自然、ものとの関わりができるような環境構成の工夫と援助の仕方を探る。

### IV 内容

- 1 テーマに関する、理論研修を行う。
- 2 幼児の興味や関心に沿って、室内、園庭の環境を見直し工夫、改善する。
- 3 保育ドキュメンテーションを取り入れる。保育内容の可視化（保護者向けに日々の様子を掲示し情報共有を図る）

#### (1) 遊びこむためには

幼児が自分でやりたいことを見つけ、物事に熱中するように環境構成や援助の仕方を工夫する。

(自己を発揮する。遊びや生活の中に目的や目標をもつ。いろいろな事に興味・関心をもって自ら意欲的に関わっていく。自分で遊びを選択し、自ら遊びを展開し、自ら問題を解決しようとする。見通しをもって、遊びをやり遂げる。)

「遊びこむ」とは、遊びに集中する中で、その子らしい発想が生かされて遊びが深まった

り広がったりしながら継続して展開されている状態のことをいう。そこには、時間・空間・仲間の三つの間が必要である。我を忘れて「遊びこむ」ほどの楽しさを知ることが「遊びきる」ことにつながる。「遊びきる」とは、友達と一緒に自己発揮をしながら十分に遊びこみ、満足感や達成感を味わうことができている状態である。

## (2) 心を動かされる体験

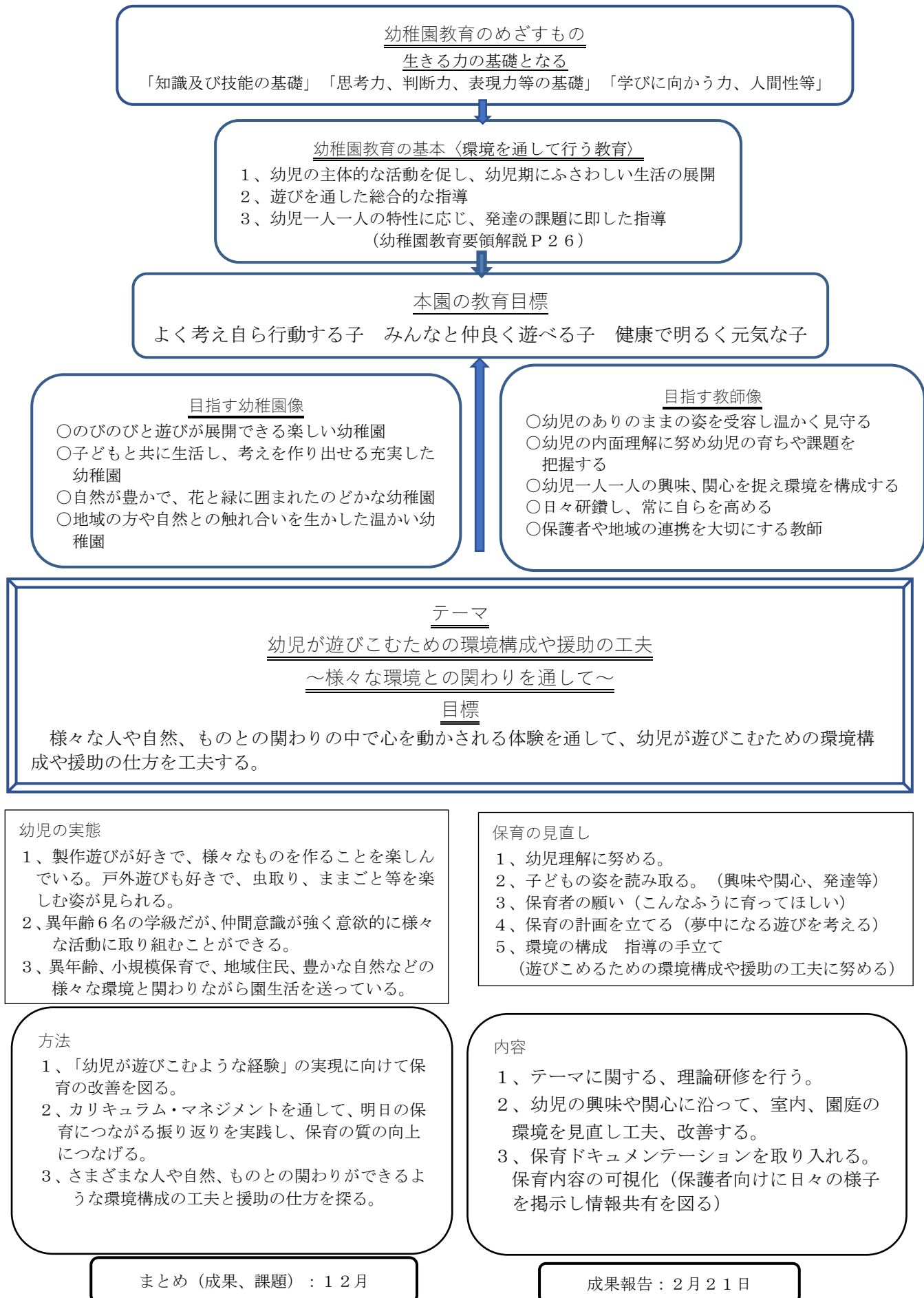
心を動かされるというのは、驚いたり、不思議に思ったり、嬉しくなったり、怒ったり、悲しくなったり、面白いと思ったりなど、様々な情動や心情がわいてくること。このような情動や心情を伴う体験は、幼児が環境に心を引き付けられ、その関わりに没頭することにより得られる。

そして、そのような体験は幼児の心に染み込み、幼児を内面から変える。また、幼児を内発的に動機付ける。すなわち、その体験から幼児自身が何かを学び、そして新たな興味や関心が湧いてくるのである。

## V 園内研修年間計画

| 月 日      | 研 修 内 容                                                                                                        |
|----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4月～5月    | ・ 幼児の実態把握                                                                                                      |
| 5月15日(水) | ・ 南城市5園研修会<br>講師：名渡山 よし乃氏<br>講話「幼児が遊びこむための環境構成の工夫と援助の工夫について」                                                   |
| 5月～3月    | ・ 日々の保育の振り返り<br>期の振り返り<br>幼児の変容の読み取りと環境構成・援助の見直し<br>園内環境の見直し、改善                                                |
| 11月19日   | ・ 幼小連携事業 知念こども園 公開保育・保育の振り返り<br>指導助言 琉球大学教育学部 講師 宮城 利佳子氏<br>・ 保育士研修会 保幼小連携について<br>講師：沖縄県教育庁「義務教育課 幼児教育班 棚原 直樹氏 |
| 12月      | ・ まとめ(成果と課題について)                                                                                               |
| 1月29日    | ・ 架け橋期カリキュラム研修会<br>・ ドキュメンテーション展示会                                                                             |
| 2月21日(金) | ・ 園内研修実践報告会<br>指導助言 沖縄女子短期大学講師 名渡山 よし乃氏                                                                        |

## VI構想図



## Ⅶ 研究の実際

### 実践事例 1

『お兄ちゃん、お姉ちゃんに伝えたいな』 久高幼稚園 3歳～5歳 計6名 5月～6月

#### 〈エピソード1〉

6月21日に久高島の伝統行事であり、久高幼小中学校の学校行事でもある「追い込み漁」が行われることを知り、前年度に参加した園児から、「深いところまで歩くんだよ」「ピザ浜で追い込み漁するんだよ」と、クラスの中で追い込み漁について話題になり始める。「追い込み漁の場所に行ってみたいな」「先生も案内するよ」という話から、散歩がてらピザ浜を見に行くことになった。

メーギ浜で、カツオノエボシみたよ！



久高島はたくさん浜があるね！  
ピザ浜はどこだろう？

もっと奥の方で追い込み漁をするよ！



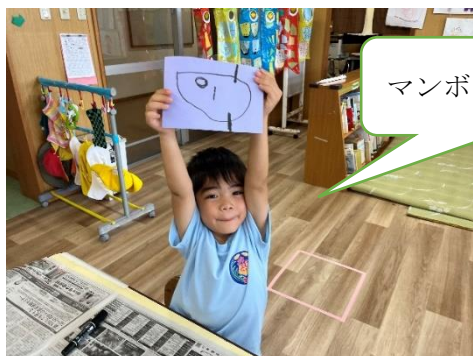
ピザ浜ついたー！

#### エピソード2

メーギ浜へ散歩に行った園児は海の生き物に興味を湧き、海の生き物に関する絵本や図鑑を見るようになった。



A児「いろんな魚がいるね」  
B児「この魚の絵を描いてみたい！」  
教師「描いた魚はどうする？何かの遊びに使えないかな？」  
C児「釣竿つくったら魚釣りができるんじゃない？」  
B児「いそれいいね！魚の絵を描くから先生紙ちょうだい！」



ハリセンボンだよ！



たくさん取った人の勝ちだよ！

このハリセンボン誰が  
作ったの？似てる！



歯が多いからサメかな？

僕の作った大きい魚頑張って  
とるぞー！

鱗を細かく描いたり、大きい紙を使って魚の大きさを考えながら描いたり、図鑑を観ながら魚の特徴を捉えて丁寧に描く姿が見られた。

### 〈エピソード3〉

久高小中学校では、追い込み漁に向けて、地域の方から追い込み漁の歴史、危険生物のビデオ鑑賞、魚のさばき方などを学ぶ授業があり、幼稚園の園児は、魚のさばき方、海の危険生物のビデオ鑑賞に参加させていただいた。

魚のさばき方では、小中学生のお兄ちゃん、お姉ちゃんに教えてもらいながら鱗を取ったり、魚を運んだりする体験をした。

海の危険生物のビデオ鑑賞では、地元のダイバーの方から海の危険生物についての解説も交えながらの開催で、園児も終始興味津々であった。

魚のさばき方



なかなかうまくできないなあ～

海の危険生物に関するビデオ鑑賞



イラブーっていうウミヘビがいるんだね

### 〈エピソード4〉

追い込み漁をするピザ浜へ散歩したり、海の危険生物のビデオを鑑賞したりしたことで、海の生物に興味津々であり、「久高島の海でイラブーが泳いでいたよ」「浜でカツオノエボシがいたよ」と園児の話の中で話し合う姿が見られた。追い込み漁に対しての関心が高まる中、海の中に入る怖さや、海の危険生物の怖さから不安になる子もいた。



教師の願い

○更に海や危険生物の注意事項を知り、追い込み漁を不安なものから、ワクワクするものになってほしい。  
○知ったこと、気付いたことを園児同士で共有して遊びに生かsetらいいな。

そこで教師は危険生物の図鑑を用意した。保育室に置かれている新しい図鑑に興味津々であり、早速友達同士で見始める。



教師「海の中は危険な生物がいっぱいだね。幼稚園生は図鑑で知って、追い込み漁本番は気を付けることができるね。だけど、小中学校のお兄ちゃんお姉ちゃんは図鑑の内容知らないね。」

A児「図鑑見せに行こう！」

教師「みんなに見せるのは難しいね。ほかにいい方法ないかな？」

B児「絵に描いてかざったらわかるんじゃない？」

C児「僕、絵はうまく描けないよ。うまく描けなかったら危険なこと伝わらないよ。」

B児「図鑑があるから、図鑑をみながら本物みたいに製作物を作ろう！」

図鑑で知ったことを小中学生に伝えるために海の危険生物の製作が始まった。



作品が完成すると、園長先生を呼び、披露し、それぞれの作品の説明をした。また、この作品を作った経緯を園長先生に話し、職員室の前に展示することになった。



これは何を  
作ったの？

エイを作っ  
たよ！しっ  
ぽの針があ  
ぶないよ！

教師「小中学校に置けることになって良かったね！でも、園長先生にも知らない生き物がいたね。置くだけだったら、みんな分からないかもしれないね。」

A児「みんなに説明する？」

B児「たいへんだよ。名前書いて、何か分かるようにしたらいいんじゃない？」

C児「そうしよう。私、字書けるから、みんなの書いてあげるよ！」

字を書くことが得意な年長児が、製作した生き物の名前を書いた。また、自分たちで内容を考えて小中学生に向けてメッセージを書く姿が見られた。



私が「エイ」っ  
て書かね

お兄ちゃん、お姉ちゃんのメ  
ッセージはなんて書く？



完成した作品を皆で職員室前に置いた。すれ違う先生を見つけては、「見て！作ったよ」「カツオノエボシは触ったらだめだよ」と一生懸命説明する姿が見られた。

小中学校に作品を飾った後も、海の危険生物の製作を続け、年長児は年下の子に作り方を教えたり、製作の手伝いをしたりする姿が見られた。作ったクラゲやウミヘビをペットにしてまごとの遊びに取り入れる姿が見られた。

クラゲのペットをつく  
って一緒に遊ぶよ！



## ○考察

- ・ 幼児の思いに寄り添いながら一人一人の意見を聞き、散歩へ行ったり、図鑑を用意したりして遊びと地域行事を関連させることで、追い込み漁等の地域行事に対する興味・関心が高まったと考える。また、実際に魚をさばいたり、海の危険生物を調べたりすることで、知ったことを他者に伝えたいという意欲が育まれたと考える。
- ・ この経験や作品を小中学校の職員や児童生徒に披露することができたが、今後は島民や保育園の園児、またその他こども園等にも経験したことや作品を披露する場を設け、更に幼児一人一人の視野を久高島だけではなく、様々な地域に広く向けていけるようにしていく。

### 実践事例2 『同じ知念なんだね』

久高幼稚園 3歳～5歳 計6名 4月～12月

#### エピソード1

弁当の日に合わせて、海へ散歩に行った時に海の向こう側に島が見えることに気付いた園児は、弁当を食べながら海の向こうの島について話し合う姿が見られた。



A児「あの島は本島だよね？」

B児「本島だよ！」

教師「あそこも同じ南城市だよ。知念が見えるね。あそこも久高と同じ知念地区だよ！」

C児「久高島も知念なの？」

教師「本島の知念にもこども園があって、たくさんの園児が遊んでいるよ。」

D児「そうなんだ！会ってみたいね！」

久高島は知念地区の一部であることを知った園児は、本島の知念地区に興味を持ち始めた。

#### エピソード2

園外保育のため本島に出た時に、本島の知念地区のことを思い出し、知念こども園を見に行くことになった。

教師「そういえば、ここも久高と同じ知念ってこと話したけど覚えてる？」

A児「覚えてるよ！こども園もあるんだよね？」

教師「近く通るけど少し見に行く？」

B児「見に行きたい！」



遊びたいな！

園児はたくさんいるのかな？



おおきいね！

知念こども園を見た園児は、施設の大きさや園児数の違いに驚いた様子であった。また、知念こども園に興味を湧き、知念こども園の園児と遊んでみたいという園児が出てきた。

後日、知念こども園と連絡を取り、8月に交流会を開催することになった。

### エピソード3

8月15日に知念こども園にて久高幼稚園、知念こども園の交流会が行われた。

最初は園児数の多さに驚き緊張した様子であったが、温かく出迎えていただいたことで段々と慣れていき、一緒にリトミックやじゃんけんゲームを楽しむ姿が見られた。

また一緒にクラスで好きな遊びを楽しんだり、友達になった園児と食事をしたりして、普段経験できない「集団生活」を経験することができた。

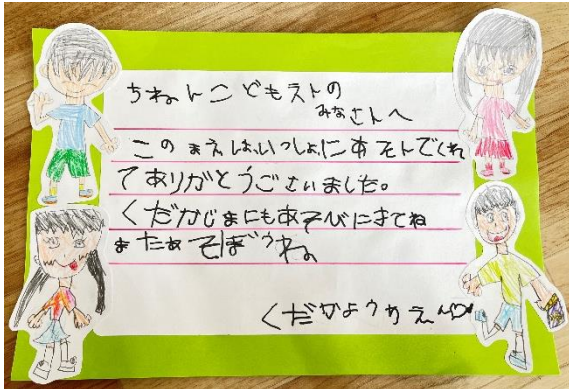


### エピソード4

文字や数字に興味・関心がある園児に年賀状の話をすると「書いてみたい」という意見が出て、年賀状の書き合いっこをすることになった。



年賀状を書いた園児は、更に他の人にも書いてみたいという意欲が湧き、誰にどんな内容を書くか話し合うことにした。



教師「年賀状は小さい紙だったから次は大きい紙に  
みんなで書いてみる？」

A児「みんなで大きい紙に書きたい！」

教師「誰に描く？」

B児「お姉ちゃんに書きたい！」

教師「いつでも書けるしすぐ渡せるね。どうせだっ  
たら遠いところに送りたくない？」

C児「遠いところがいい！」

教師「じゃあ誰に送ろうか？みんながわかる、楽し  
かったり、お世話になったりしたところがい  
いね。」

A児「去年の先生はどんな？」

B児「新しく入った子が分からないよ。」

C児「知念こども園楽しかったから知念こども園に  
送ろう！」

教師「いいね！知念こども園に送ろうか！」

知念こども園に感謝の気持ちとまた遊びたい気持ちを込めた手紙が完成した。園児は郵便局へ出向  
き、切手を購入しポストへ投函した。「早く届くといいね。」「返事が来たらうれしいね。」と満足そ  
うであった。

#### ○考察

- ・ 幼児のつぶやきや思いを汲み取って教師自身が話題を広げたり、他者との関わりをもつ機会を提供  
したりすることで、新しい考えが芽生えたり身の回りの環境以外にも興味・関心を広げていくこと  
ができたと考える。

## Ⅷ 成果・課題・改善策

### 《成果》

- ・ 教師が日々の保育の中で幼児の些細なつぶやきに耳を傾け、思いを丁寧に受け止めたりすることで、  
新たな気づきや様々な興味・関心へ繋がっていったと考える。
- ・ 小規模園の利点を生かして、幼児の興味・関心に即した柔軟な保育を展開し、環境を工夫したこと  
で、様々な人や自然、ものとの関わりの中で心を動かされる体験を通して幼児が遊びこむ姿が  
見られたと考える。

### 《課題・解決策》

- ・ 異年齢学級ということもあり、3歳児には難しい活動もあったと考える。各年齢の発達段階を踏ま  
えながら、幼児一人一人に合った言葉かけや援助の工夫が必要である。
- ・ 今年度に入って交流会を企画、実施したため幼児や協力園に負担があったと考える。定期的に実施  
できるように毎年ごとに年間計画に盛り込んでいく。
- ・ 久高島には様々な拝所がある。また、久高島ならではの仕事が数多くある。久高島の環境をさらに  
保育に盛り込み、遊びの中で様々な人や自然、ものとの関わりながら心を動かされる体験を通して、  
幼児が遊びこめるよう環境構成や援助の仕方を工夫していきたい。